



心をこめて精一杯活動実施中

加古川市立

志方東小学校



令和5年度

学校便り 第9号

R5.5.23 発行

心を一つに 練習から精一杯



9日(火)五月晴れのもと、朝から1回目の全校練習を行い、入退場の練習とラジオ体操の位置の確認をしました。子どもたちは、体育担当の指示をよく聞き、また高学年の手本もあり、背筋、目線、指先に気を付けてしっかりと行進することができていました。体育担当より「心を込めて精一杯する。しかし、無理をしない。めりはりをつけること」や、マスクを外し、水分補給をしっかりと、体調管理に留意するよう話をしました。

また、16日(火)8時半頃から、2回目の全校練習を行いました。この日も雲一つない快晴のもと、行進、開閉会式、ラジオ体操の練習をしました。コロナ禍では省略せざるを得なかった校歌斉唱も、はじめは遠慮がちでしたが、音楽担当の指導により大きな声で歌うことができていました。校長から「今年は人数制限することなく、たくさんの方に運動会に来ていただき、みなさんの練習の成果や成長を見てもらいましょう」と声をかけました。各表現運動では、6年生の中に練習が始まる前に自主練をしている児童もおり、小学校生活最後の運動会に向けての意気込みが感じられます。運動会に向けての練習で、Chromebookを活用しています。Classroomに演技用の音源が投稿されているので、子どもたちはグループでの自主練習時にそれを使用します。さらに、家でも練習を積んでいるようです。

人数制限なく保護者の方や地域の皆様、たくさんの方にご覧いただける運動会が開催できるという喜びを、子どもたちと共有したいと思っています。



「ソーラン節」に思いをこめて

運動会での高学年(4,5,6年生)による表現運動「ソーラン節」は、北海道を代表する民謡の一つです。ニシン漁で歌われる労作歌(作業の統一、また慰めのために歌う)で、初めに〈ヤーレンソーランソーラン……〉と歌い出すところから名がつけられました。獲ったニシンを運搬船に移す作業を「沖揚げ」と言い、この時に歌われるのが「ソーラン節」で、漁師たちを力づけ、調子づける歌です。「^{いたご}板子一枚下は地獄」とたとえられるように、船底の板一枚下は、落ちれば死につながる恐ろしい海であることから、漁師や船乗りの仕事は非常に危険で命がけで

す。それゆえ作業のタイミングが合わないと海へ落ちてしまうので、息を合わせる、つまり「心を一つに」する必要があります。小中学校の運動会や体育大会で演技される「ソーラン節」ですが、およそ10年前、中学校勤務時代の忘れがたいエピソードがあります。中学1年生の学年演技として体育担当が「ソーラン節」の指導をしていましたが、型通りに踊るだけで気持ちが入っていない生徒が多いと感じていました。そこで、学年全体に向け「東日本大震災により、大打撃を受けた漁場がある。海の幸豊かだった漁場はいまだ回復の見込みがたっていない。遠く離れた地に住む、まして中学生である君たちにできることはないかもしれないけれど、せめて心をこめてソーラン節を演技することによって、被害にあわれた方たちにエールを送ることはできる」と言葉をかけました。すると、明らかに生徒たちの演技が変わりました。体育大会当日、演技前の代表あいさつの中に「東日本大震災で被害にあわれた方たちにエールを送ります」という言葉が追加され、言うまでもなくその演技は、観客の感動を呼びました。ひがしっ子による「ソーラン節」も楽しみです。



熱中症対策 体操服のシャツはアウトで

「体操着のシャツの裾は出した方が涼しい」。群馬県の中学校で理科を教える教諭が、サーモグラフィーを使った実験でこんな結果を導き出したという新聞記事を数年前に読みました。中学校の現場ではシャツの裾入れの指導がされているが、この教諭は「熱中症対策として検討してほしい」と呼びかけています。実験は6~7月にかけて実施され、4人の生徒のうち2人はシャツの裾を入れた状態（イン）、2人は出した状態（アウト）で運動し、運動後にサーモグラフィーで体温を測定するというものでした。2分後に体温を比較すると、アウトの生徒の体温は29~30度とインの生徒よりも4度ほど低くなりました。日本中学校体育連盟では大会のルールとしてシャツの裾入れを明文化している競技もあるといます。また、学校の現場でも安全面を考慮するほか、生活指導の基本として「裾入れ」の指導がされています。しかし、教諭は「命を守るための一つの選択肢として、学校現場で臨機応変に対応してもらえれば」と話します。本校でも、運動によってインでないと安全面に問題がある場合や競技種目の礼儀を踏まえた上で、期間（熱中症の心配がなくなるころまで）を限定し、目的を明確にして熱中症予防の対策として指導していきたいと思います。

6年生 ふるさと学習を進めています

12日（金）に、「志方歴史ボランティアの会」の方3名にお越しいただき、「城山の歴史」について、6年生が学習しました。最初に代表の方が「自分たちがいろいろ調べたことを、ぜひ



地域の人に知ってほしい」という思いから、大人向け、子ども向けの紙芝居を制作したというお話がありました。お話の中では、織田信長、豊臣秀吉、黒田官兵衛、別所長治など、歴史上のそうそうたる武将や、「小田原城水攻め」「本能寺の変」「中国大返し」などの名高いできごともしも出てきました。後半は、「東の城山 西の高御位山」で知られているということで、高御位山についても、紙芝居で紹介してくださいました。この後、実際に城山にも登る予定です。